

# 栗野西地区の通過交通の現況調査について

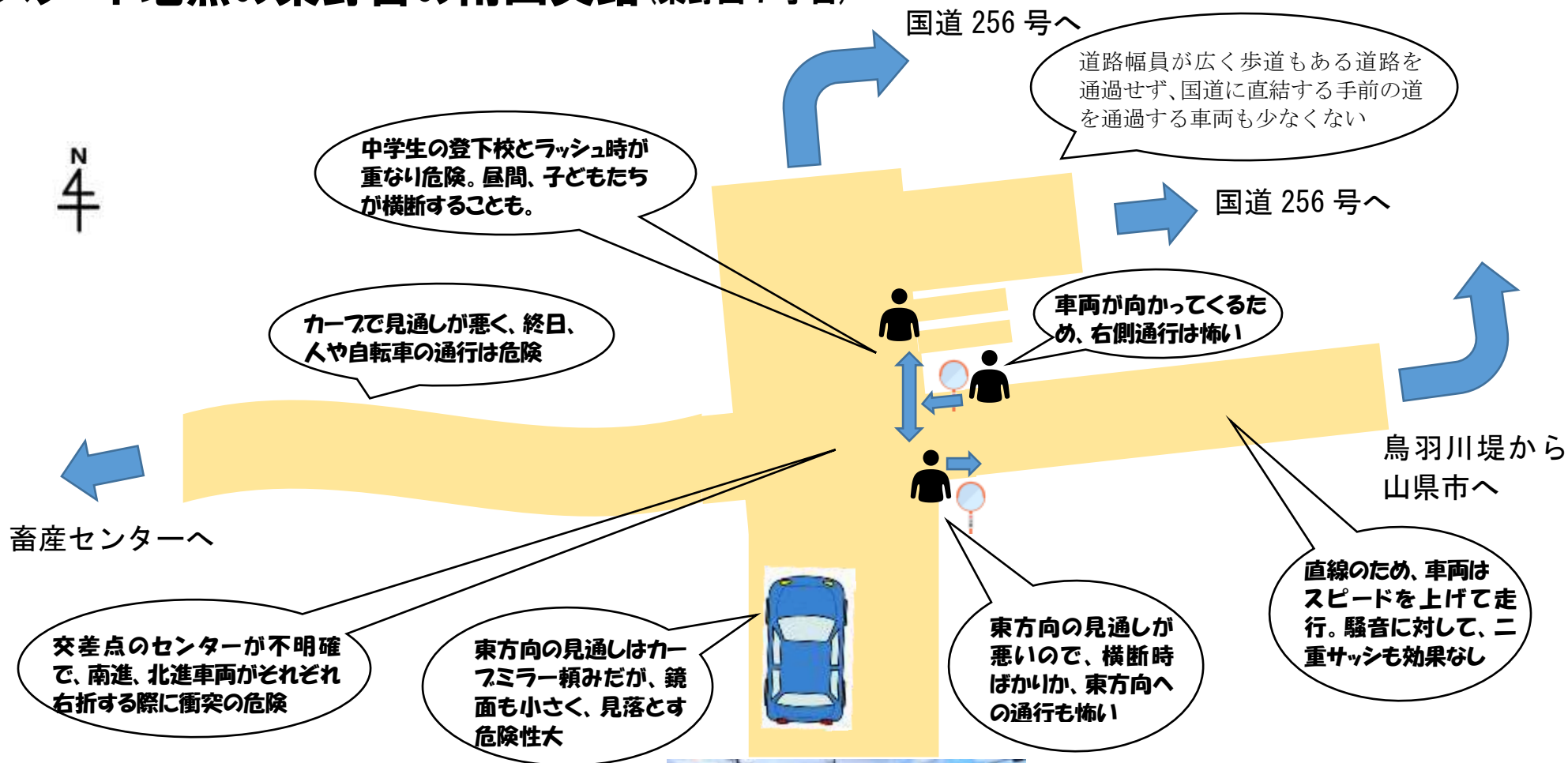
## ～十六銀行グラウンドから山県市を結ぶ生活道路～

地域課題の一つとして地域ビジョンに掲げる通過交通の危険性について認識を共有するため、交通量がとりわけ顕著な栗野台南面道路(以下、「東西生活道路」と言う)を中心に、現地踏査を行いました。今後、当面の安全対策を市と協議・実施するとともに、抜本的対策について、継続した協議が必要と考えられます。

- 1 調査日時 令和5年4月13日(木) 午前7時～8時30分
- 2 調査人員 (市) 道路建設課 2人 地域担当職員 1人 計3人  
(地域) まちづくり協議会会長、同安全部会長、自治会長など9人 途中から見守りボランティア2人が同行 計11人
- 3 調査区域 東西生活道路(栗野台南口四叉路 ⇒ 十六グラウンド) ⇒ 岩野田中学校



# スタート地点の栗野台の南四叉路 (栗野西 7 丁目)



▲「栗野台南四叉路」調査風景 (7時23分)



▲「栗野台南四叉路」生徒横断 (R5.10.24 7時48分)

## 4 通過交通の背景・課題

岩野田北地区は、土地区画整理事業が施行なされていないため狭い道路が多い反面、ここ数年、宅地化に更に拍車がかかっています。

また、国道 256 号が開通しても、岩野田北地区には金華橋方面と山縣市との間の通過交通が依然として多く、児童・中学生をはじめ、住民は交通事故の危険に著しくさらされている。

このうち、山縣市と金華橋方面を最短で結び、信号も少ないため、栗野台の団地の南面を通る**東西生活道路**は、狭隘かつ生活道路にもかかわらず、幹線道路化している。当該道路は、昭和 50 年代にはすでにラッシュ時の車両の多さが目立っていたが、高富町とを結ぶ鳥羽川の橋が車両のすれ違いができなかったため、ラッシュ時も一方通行状態。しかし、水害を受けて河川改修後、堤防道路が対面通行できるようになってからは、現在の状態になっています。

東西生活道路(特に県道接続部分)のラッシュを避けて、**生活道路全般にも通過交通**が入り込んでいます。

交通安全は、住民の命を守るまちづくりの重大なテーマであり、岩野田北の地域ビジョンでも重要課題に。

騒音も著しく、ポイ捨ても含めて、居住環境を悪化させており、アンケートでは交通安全及び通過交通に対する住民の要望も大きいものがあります。

**東西生活道路**の当面の安全対策としては、中学生も通学時の横断が余儀なくされる四叉路の安全対策のほか、当該道路の通行車両に対する対応(交通規制強化、カメラや看板設置等)などを検討するとともに、抜本的な中長期的対策として、畜産センターと山県 IC をつなぐ新たな道路整備(あわせて畜産センターに関しては公園の魅力向上・再整備)が期待されます。

**生活道路全般**に関しては、住民の安全のためにも県道安食栗野線の道路改良(歩道整備)及び中学校の通学道路の見直し(下の写真参考)、そして宅地開発が進む現状を踏まえ、小中通学路の安全点検もテーマになると思われます。

以上、今回の調査を踏まえ、地域での情報共有を図りつつ、市との協議を重ねていくこととなります。

### ● 県道の中学校通学路の代替候補案

▶【左写真】 県道の一本南の道路の東方向。鳥羽川の堤防から続く道。堤防からの車両侵入はできないようポールで遮られている。

▶【右写真】 同じ道路の西方向。突き当たりが中学校。

(8 時 17 分)

